

神戸大学医学部附属病院 美容外科

2007年にアンチエイジング専門科として開設。充実した設備を備え、最新の美容医療を提供しています。同時に、エビデンス(科学的根拠)に基づく美容医療の知識を市民に啓蒙していく活動にも積極的。次回の美容医療市民講座は秋ごろ開催を予定(HPにて告知)

<http://www.med.kobe-u.ac.jp/cosme>

同科に寄せられる美容相談はシミ、シワ、タルミが半数以上。そこで講座ではまず、杉本美容形成外科の杉本庸先生がボツリヌストキシン製剤(ボトックス)のシワ治療に関して解説。近年は優れた治療薬の誕生で、気になる部分に注入剤を入れるだけで高い効果を発揮。手術対応だった例にもこの治療が進んでいます。ただし、やみくもに入れても効果は期待できず、量を調整しながら確かな部位に入れることが大切で、専門医の腕が結果を左右します。また日本の認可薬はアラガン社のボトックスのみですが、未認可薬も多く使われているそう。シワに注入するヒアルロン酸等もまだ未認可なので注意して治療を受ける必要があります。『ボトックス治療で良い状態を

進化するアンチエイジング医療

神大医学部附属病院が 美容医療市民講座を開催

キープ出来るのは半年。だからこそ逆に安全と考えると「欲しい」と訴えました。続いてのテーマは、西記

念神戸アカデミアクリニック小西和人先生による女性の薄毛について。年齢とともにコシ、分け目、抜け毛が気になる人が増加し、

生活習慣やストレスなども原因とされる男性型脱毛症(AGA)が女性の間でも広がりを見せています。進行型のAGAは早期治療がベスト。また毛周期の関係で、最低でも3、4カ月は同じ治療を継続すべきだそうです。自宅で簡単にできるケアとして、健康な食生活とサプリの服用を挙げ、鉄分、亜鉛、ミネラルなどを補うことが大切とアドバイスしました。

講座の締めくくりは、同科診療科長・准教授の一瀬晃洋先生によるシミ・シワ・タルミの最新治療について。美容医療は「患者さんの心理面への効果」を評価することが重要とし、技術や機器は日本人向けに日々進化している現状を話しました。その結果、治療の持続性がアップし、傷跡は目立たず回復も早まっています。また、副作用や合併症の危険も少なくなってきました。

「患者側は目的意識をはっきりと持ち、治療のメカニズムを理解したうえで専門医の確かな診断と治療を受けてほしい」と呼び掛けました。



私たちにも関わりのある様々な問題をレポートしました。

年齢を重ねても若さをキープしたいと、注目が高まっているアンチエイジング医療。そのニーズに応えるべく、次々と新しい治療法が生まれています。しかし、美容医療に対する偏見や誤解は未だ多いのも事実。そこで神戸大学医学部附属病院美容外科では、一般に広く美容医療の今を知ってもらうため定期的に市民講座を開催。今回は5月24日に開かれた講座についてレポートします。

